

「食の安全」講演会



テレビでは放送できない食品表示のウソ・ホント ～健康食品で健康になれる?～

先月中旬に発覚した廃棄冷凍カツの問題で、食の安全について不安を感じているさなかの2月1日(月)、厚木商工会議所5階で、厚木市消費生活センター主催の「食の安全」講演会が開かれました。

「テレビでは放送できない食品表示のウソ・ホント」健康食品で健康になれる?」講師は、消費者問題研究所代表で、食品問題評論家の垣田達哉さん。

食の安全講演会では平成21年度から連続で垣田さんが講師。冷凍餃子や放射能、マクドナルドなど、毎回新しい問題が起きますが、今回は大きな問題が無い中での募集開始でした。ところが、冷凍カツが問題になり参加申し込みが急増しました。

講師によると、12月から1月は食の問題が起きやすいとのこと。

講演の後にNHK「クローズアップ現代」の生出演があるということで、放送の裏話。クロ現の国谷キャスターは、クニヤイズムともいわれる丁寧な打合せで、本番でのフォローが上手いのだそうです。某民放では1時間のインタビューの後、実際に使ったのは10秒程度。

食品ロスが言われているが、食べられるのに捨てられることと、廃棄物である冷凍カツの横流し問題とは別。産業廃棄物法は性質善説でつくられている。書面だけの確認で、業者がウソをついているのがわからない。本場に廃棄されたかどうかは産廃業者次第。産廃業者のダイコーは2014年に6回の立ち入り調査でもわからなかった。家庭ではゴミの分別をしているが、大量廃棄のメーカーは分別せず、パッキングのままきれいな段ボールに入れ「どうぞ横流しして下さい」と言っているようなもの。

安いものには訳がある。安い理由に納得できるかどうか。2015年4月から食品表示法が施行。来年4月からの消費税増税で軽減税率との関係でもめているが、増税しなきゃいいんです。日本は消費者より経済の方が強い。

機能性表示食品制

度がスタートした。保健機能食品の特定保健用食品(特保)・栄養機能食品に、機能性表示食品が加わった。国の審査は無く、届け出書類に不都合が無ければOK。効能・安全性はメーカーの判断。特保でも、機能性表示食品ならOKになる。選択は消費者の自己責任である。

保健機能食品の位置づけ

一般食品	栄養補助食品・健康補助食品・栄養調整食品等を含む	
保健機能食品	特定保健用食品	国が審査し許可する
	栄養機能食品	国の基準に適合すれば表示可。届出不要
	機能性表示食品	事業者の責任で表示。国の許可はいらない
医薬品	医療用の薬	
医薬部外品	医薬品と食品の中間。「薬用…」と表示。	

とどまることはあり得ない。ヒアルロン酸は経口摂取での有効性は確証無し。

食品安全委員会からの注意

- ・「食品」であっても安全とは限らない
- ・多量に摂ると健康を害するリスクが高まる
- ・ビタミン・ミネラルをサプリメントで摂ると過剰リスクの危険
- ・「健康食品」は医薬品ではない
- ・誰かに良い「健康食品」が、あなたに良いとは限らない。経験談を信用しない

「食」は命そのもの。ただし、講師の垣田さんは「あまり気をつけていません。テレビ出演時控室で出されたものは何であろうと食べます。幕の内弁当が好きです。いろんなものを食べます。添加物、食べないわけじゃない。どんな発がん物質より毒だとかわかっていても、酒も飲みます」とのことです。

話題あれこれ

1月30日(土)の午後1時30分より、厚木市文化会館小ホールで「あつぎ市民ふれあい都市フォーラム」が開かれました。「地域福祉推進大会」と同時開催です。

事例発表では、コミュニティカフェ「荻野の運営」をしている岩崎正昭さんから「地域住民のふれあいと活動の場づくり」と題して、Tobiogaryリー事業の紹介がありました。

厚木市市民協働事業提案制度を利用して、今年4月1日から運営開始となるものです。パティオとびお商店街の店舗を利用して、東京工芸大学・UR都市機構と共同で企画し、コーヒーを飲みながらサロン風な雰囲気、地域の地域住民の拠点の構築を目指します。

岩崎さんは地域のコミバス「森の里ぐるっと」の運営に関わってきたことから、荻野地域で「荻野ぐるっ



れあいのある地域づくり」一人一人の声を聞き伝える力。

アメリカのトップアスリートの環境の日本との違いから、トップアスリートとなるためには、経済的支援+情報+時間+コミュニケーションが必要であることが言われました。コミュニケーションのポイント、たくさん吸ってちよっと吐くこと。

知ること、ものの見方が変わってくる。それにより、毎日をどう過ごすか、時間を何に向かって使うかも変わる。

吸う	吐く
読む	書く
見る	話す
聞く	